

SAAJ 日本システム監査人協会報

速報 「システム監査企業台帳制度」説明会

システム監査企業台帳の登録に関する詳細な説明会が、東京では去る4月11日芝公園の機械振興会館において行われた。以下に、その内容を紹介する。

なお、文中「規則」とは、平成3年3月8日通商産業大臣告示第72号の「システム監査企業台帳に関する規則」をいう。規則ならびに申告書の様式は、会報No16を参照されたい。

1. 定義

「システム監査企業」とは、個人事業主を含み、他人の求めに応じてシステム監査基準に基づきシステム監査を行う者をいう(規則第2条第2項)。ただし、企業に雇用されている個人は含まれない。

2. 申告書について

「あて先」は通商産業大臣とし、申告書は情報処理振興課に提出する。また、用紙枚数は3枚に限定し、手書きは不可とする。

「企業の代表者氏名」は、代表権を持つ役員とする。

3. 別紙Iシステム監査企業の概要について

「最近3年間の売上高」は左より、最近年度、前年度、前前年度の順に記入する。

「システム監査を行う部門の連絡先」は、1社につき連絡先が複数ある場合でも代表となる部門を1か所のみ記載すること。他の部門は、4. その他の欄に記載すること。また、電話番号は、市外局番から記載すること。

「従業員数」は正社員のみとし、アルバイトやパートは計上しないこと。

「従業員数(うち、上記部門の従業員数)」には、兼務者をも含むものとする。ただし、システム監査の経験のない者は含めてはならない。

4. 別紙IIシステム監査の概要について

「1. システム監査実施の実績」は、かつて

企業に所属していた者が、後に個人事業者として申請する場合には、企業に所属当時の実績を適宜援用し掲載してよい。

「1. ③主な監査内容」には、自社の内部監査の実績を含んでよい。

自社が開発を請け負ったシステムについても、独立した立場で行った監査は、外部監査として取り扱う。

「1. ④前年度の監査内容の監査対象・テーマ等」は、「××システムの××性」とか「データ漏洩の監査」などのように簡潔に記述すること。

「2. システム監査従事者の概要の従事者一覧表」は、告示では4人枠となっているが、用紙の許す範囲(A4版3枚)で追加記入してもよい。

「3. システム監査の得意とする分野」は、データベース・ネットワークなど依頼者が選択するにあたって手がかりとなるよう具体的に書くことが望ましい。

「4. その他(システム監査の特色等)」は、料金体系や監査ソフトウェアの有無などを自由に記述すること。なお、監査従事者の所有する関連資格については、公認会計士や中小企業診断士など国家資格を想定しており、民間資格については消極に解する。あえて民間資格を記載するときは、民間資格である旨を付記すること。

5. 取扱い

登録台帳は、9月頃に発刊され、通商産業省の本省ほか商工会議所などでも有料で配布される予定である。なお、関連団体が独自に印刷し配布することも妨げない。

(文責：日本ユニシス荒川幸式)

第13回研究会「経営戦略と情報システム」

去る3月28日(木)東京・飯田橋の日本ユニシス(株)飯田橋東海ビル1階セミナールームにおいて、第13回会員研究会が開催された。今回は日本ユニシス(株)ビジネスコンサルティング室室長代理のト部正夫氏を講師にお迎えし、『経営戦略と情報システム』というテーマでお話をいただいた。当日は、年度末で生憎の雨天にもかかわらず約50名が参加し、熱心に講演に聞き入っていた。

司会の荒川氏によれば、ト部氏は目下日本ユニシスにおいてS I Sに関する最も売れっ子のコンサルタントとのことである。講演内容は実践に裏付けられた明解な理論により構成されており、参加者にとって極めて有意義な講演であった。

〈講演内容〉

講演内容は次の6つから構成されていた。

まず、「S I Sに対する考え方」では、従来の業務効率化型のシステムとS I Sの本質的な違いについて説明があった。S I Sとは激しい環境変化に柔軟に対応する企業戦略を支援する情報システムである。また、S I Sは組織の意識改革運動であり、技術的には変化に迅速に対応できる「データ中心」設計にすることが重要とのことであった。

「S I S構築計画策定方法の体系」では、経営戦略策定技法およびシステム化計画技法との関係について説明があった。

「経営戦略策定技法」は経営理念、企業目標、戦略ドメインの確立、アンゾフの成長ベクトル、環境シナリオの作成、価値連鎖、企業内部分析、機会・脅威/強み・弱みの抽出、企業のあるべき将来像の探索、S I Sのイメージづくり、戦略計画の立案、といった内容から構成されており、その明解な論理構成はあたかも



経営学の講義を聞いているようであった。

「システム化計画技法」では経営戦略をいかにシステム化していくかの技術的な観点から説明があった。

「技法適用の要点」ではS I S構築の組織体制についての説明があった。

最後の「まとめ」では、S I Sは単なるシステム構築ではなく、「意識改革運動」であることが強調されていた。

この講演を聞いて、S I Sと従来のシステムとではシステム構築に対する考え方、アプローチの仕方が全く異なることを痛感した。また、システム監査員の立場に立ったとき、S I Sの監査はどういう切り口で行うべきか、どの基準を用いるのかが適切か、難しい問題が残された。

いずれ、この研究会でS I Sの監査方法を取り上げてくれるものと今から期待しております。

(No.328 勝田 敦彦)

書評『中小企業診断士 合格から活用まで』

サラリーマンの凡そ8割が機会さえあれば独立したいという「夢」を持っているという調査結果があるが、独立するにせよ転職するにせよ、そのためにもっとも有力な資格が中小企業診断士である。サラリーマンの自己啓発目標なり、取得希望資格の上位に挙げられている人気の高い資格が、情報処理技術者と並んでこの中小企業診断士の資格である。

この本は、中小企業診断士の受験のための勉強方法やそのやり方について、最近取得された中小企業診断士32名の合格体験記である。執筆者の中には当協会の会員も4名(蓮見節夫氏、宮崎一紀氏、中山高秀氏、木村典昭氏)おり身近な経験談として興味がある。

経験談の中で皆がもっとも苦勞しているのが勉強時間をいかに確保するかであり、誘惑の多いサラリーマン生活の中で不義理を重ねながら、家族との生活を犠牲にしながら時間を作る戦いをしている。20年前にこの資格を取得した私としては、昔とちっとも変わらないなどと言う感を強くしている。

情報処理技術者の試験の方はまだ現在の仕事に関係が深いいわば業務密着型であり仕事時間の中で勉強という人も中にはいるが、中小企業診断士の方は非常に範囲が広く、自己学習の部分が多いのも一層時間確保の困難な所以かも知れない。

以前と変わった部分としては、勉強方法についてはかなりいわゆる受験産業による組織的な勉強方法が主流を占めるようになってきた感があり、今後ともそのような傾向が強まりこそすれ弱まる事はないという感じを持った。

いわゆる合格体験記としての部分は、具体的な勉強方法・受験準備など各人各様で、苦勞・工夫し、それぞれ参考になるが、私自身と

してむしろそれぞれの人の資格取得を思い付いた動機とか、資格取得後の動向に興味を持って読ませて頂いた。自己啓発の為、転職・独立の為、定年対策の為、企業内診断士としての活動の為、キャリアウーマンとしての章立てとなっており、それぞれの興味に応じて読めるようになっている。中小企業診断士の取得を目指す人にとっては一読の価値があるお薦めの本である。

当協会会員の蓮見氏が書いているが、単なる企業内だけでのサラリーマンとしての付き合いではなく、資格取得の結果として人的ネットワークを拡大することができ、その付き合いを通してより幅広い視野を持つことが出来た事を成果としている。これらは我がシステム監査技術者の資格取得者にも共通する部分があるのではないだろうか。

経営情報出版社

『中小企業診断士。合格から活用まで』 ¥1800
梅津尚夫(会員番号74)

おわび

1. 会報No.17の「パソコン通信倶楽部」についての記事中、蓮見節夫氏のIDがまちがっておりました。正しくは(NIFTY-ID:MHE02226)です。

お詫びして訂正いたします。

2. 会報No.17でご紹介した「平成2年度最高齢合格者の秀嶋弘行さんの紹介」の記事の中で、ご本人の勤務先が「オール・ケー・ビー毎日放送」であることの記事が脱落しておりました。

お詫びして訂正いたします。

九州支部作成小冊子

「システム監査のススメ」

当協会九州支部のメンバーによって執筆された「システム監査のススメ」が最終校正段階に入りました。

企業における情報活用の重要性が高まってきた今日、情報システムの企業経営に及ぼす影響が大きくなってきています。これに伴い情報システムも定型業務中心のシステムから戦略情報システムへと広がってきています。

これらの動向に対応するためには、経営者としては、まず既存の情報システムが現在どれだけ貢献しているのか、またどこに問題があるのかを十分に理解しておかなければなりません。

しかし、情報システムの重要性や情報自体の価値の重要性は分かっている、情報システムやコンピュータを完全なものと思いきみ信頼しきっていたり、ブラックボックス化している現状をまのあたりに見ると、尻込みする経営者が多いと思います。

副題に「情報システムの健康診断」とあるように「システム監査」を身近な判りやすいものとして主に経営者の方々に理解していただくことをめざしています。

(内容)

- ーシステム監査の必要性とメリット
 - ーシステム監査の概要
 - ーシステム監査を実施することに当たって
 - ーシステム監査Q&A
- 出来上り次第、各会員に送付する予定です。

「日本システム監査人協会」

パンフレットができました。

当協会の設立趣意、規約、活動内容、役員、入会手続等をまとめたパンフレットができました。皆さんのお近くに、合格者の方で会員になっておられない方がおられましたら、このパンフレットで入会のお誘いをして下さい。

なお、パンフレットは協会事務局まで請求して下さい。

事務局からのお知らせ

<会費振込みのお願い>

本年度(平成3年1月1日～平成3年12月31日)の会費(正会員10,000円 準会員8,000円)を未納の方は、下記宛にお振込みください。

| | | |
|---|--------|-------------------------|
| { | 郵便振替口座 | 東京1-352357 |
| | 加入者名 | 日本システム監査人協会事務局 |
| | 銀行振込口座 | 第一勧業銀行北沢支店 普通1053488 |
| | 口座人名 | 日本システム監査人協会 事務局鈴木信夫 |

会費振込に際しては、必ず会員番号をご記入願います。

<住所変更について>

住所変更、所属変更等がございましたら、事務局へ書面でお知らせください。

<会員の声募集について>

会員相互のコミュニケーションを図るため、「会員の声」を募集します。また、会報についてのご意見、ご要望もお寄せください。

この件については、会報担当宛に郵便、またはFAXでお送り下さい。

<合格者の連絡先調査のお願い>

1月末日に昨年10月に実施された第5回システム監査技術者試験の合格者が発表になりました。ついては、会員の周辺で、合格者を発見(?)した時は、事務局まで至急FAX(03-3415-1388)までご連絡ください。事務局より折り返し、入会申込書を発送いたします。

発行所 日本システム監査人協会

発行人 川野 佳範

事務局

〒157東京都世田谷区砧1-10-11

NHK放送研修センター内鈴木信夫

TEL.03(3415)7111(内631) FAX.03(3415)1388

※ご連絡はなるべく郵便または、FAXでお願いします。

会報担任(ご投稿、ご意見、ご要望は下記まで)

長野 正己 東京海上火災保険(株)財務企画部

TEL.03(3212)6222 FAX.03(3211)2430

小松原 拓 富士通(株)教育部

TEL.03(3735)1111 FAX.03(3730)1389

今井 純子 公認会計士今井純子事務所

TEL.03(3992)9381 FAX.03(3992)2450

波田 直登 NTTデータ通信(株)

TEL.03(3847)8996 FAX.03(3847)8999